

開講科目名	西洋建築・都市史		
担当教員	足立 裕司	開講区分	単位数
		後期	2単位

### 授業のテーマと目標

現代の建築設計の基礎となっているモダニズムについて、その形成過程から検討することにより、建築設計の基本となる表現・理論・思想についての理解を深める。それらは実際に建築設計に取り組む上で重要な素養であり、自己の設計を社会的な視座や人間的な視点から考えることにより、都市環境や建築環境についての理解を深めるとともに、建築設計を職能面、倫理面からの視点を通じて考え直す契機となることをめざしている。近代建築史の中から下記のようなテーマを適宜取り上げて講述する。多様な分野の関心を包摂しうるように、主として今日的な意義、関心の高い話題を取り上げる。

### 授業の概要と計画

1. アーツ・アンド・クラフツ運動以降のデザインと職能の形成
2. モダニズムと建築言語に関する考察
3. 現代建築思潮と建築環境についての考察
4. ポスト・モダニズムの理論とデザイン
5. 建築デザインにおける時間の概念

### 成績評価方法と基準

提示したテーマの中から1つを選び、各自が考察した内容についてプレゼンテーションする。

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

(一級建築士実務資格認定科目)

### オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーの日時は授業開始時に通知する。  
E-mail: adachi@kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

建築デザインの理論がどのように形成され、設計に反映されていくかを歴史的に考察するので、設計を志す学生は是非受講してほしい。

### テキスト

参考文献は授業開始時に紹介する。

### 参考書・参考資料等

開講科目名	建築環境安全論		
担当教員	大西 一嘉	開講区分	単位数
		後期	2単位

### 授業のテーマと目標

現代の建築・都市が抱える安全安心テーマをとりあげ、社会的受容性あるいは防災的アジェンダ形成の観点から現実の行動や建築・都市活動との関係を論じる。各受講者は与えられたそれぞれのトピックについて積極的に事例を提出し、討議に加わることで、理解力、まとめる力、コメント力、プレゼンテーション力を評価される。

### 授業の概要と計画

学術研究と社会との接点を意識しつつ、建築基準法、都市計画法、消防法などに基づく建築物の安全性能評価に関わる総合化手法や、延焼過程の研究にもとづく法的枠組みの理論的根拠を講述し、実務に即した建築安全設計能力向上を図る。受講者は、以下のトピックから幾つかを選び考察する。1) 地域の風土、文化と災害、市街地景観と木造密集地、2) 地震火災と日常火災、法令に基づく用途区分の違いと法規制、3) 木造の経年劣化と居住性、耐震性強化とリスク認識、4) 都市復興計画の支援システム、自治体における災害対応、5) マンションの日常管理と緊急対応、地震時の人的被害軽減戦略、6) 復興まちづくりと防災まちづくり、防災教育、7) 防災体制の国際比較、震災復興対策の海外事例

### 成績評価方法と基準

成績は、グループでのレポート(40%)、個人でのレポート(30%)、および発表と質疑応答の内容(30%)を加味して評価する。  
評価が60点以上となったものを合格とする。評価の目安は、講義の内容を十分に理解して基礎知識を取得し、意欲的に講義に参加したと判断できる場合を優、講義の内容はよく理解したが、積極性が十分でない判断できる場合を良、講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を可とする。

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

(一級建築士実務資格認定科目)

### オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーの日は授業開始時に通知します。

### 学生へのメッセージ

### テキスト

教科書は特に指定せず、授業時に配布する資料等により講義する。

### 参考書・参考資料等

大西一嘉他、著「大都市の社会基盤整備」(東京大学出版会)

開講科目名	日本建築・都市史		
担当教員	黒田 龍二	開講区分	単位数
		後期	2単位

### 授業のテーマと目標

日本の建築、都市、集落は長い歴史的時間の流れの中で独特の発展を遂げたきた。それらを学問的な認識の俎上に載せることは、これからの社会の形成にとって重要なことである。  
この講義では、地域の文化財の発見というテーマを設定し、地域の建築、都市、集落における文化財を学生それぞれが設定した問題意識のもとに、その意義を記述し、文化史的な評価を与える方法論を講義する。学生はそれに従い、あるいはまた独自の価値判断によって地域の文化財を発見する基礎的素養を身に付けることを目的とする。

### 授業の概要と計画

- 第1回 地域の文化財とはなにか。
- 第2回 地域の文化財を発見する論理
- 第3回 建築史的意義の具体例1（浄土寺浄土堂と太山寺本堂）
- 第4回 建築史的意義の具体例2（浄土寺の配置計画）
- 第5回 歴史的意義の具体例1（浄土真宗本堂の形成）
- 第6回 歴史的意義の具体例2（地域における浄土宗本堂の分類、類型の発見）
- 第7回 文化史的意義の具体例1（オコナイに使用される建築類型と分布）
- 第8回 文化史的意義の具体例2（オコナイに使用される建築類型の意義）
- 第9回 社会的意義の具体例1（神社史、神社建築史における神仏習合）
- 第10回 社会的意義の具体例2（国家史と神社理解の関係）
- 第11回 学生の事例研究とその評価1
- 第12回 学生の事例研究とその評価2
- 第13回 学生の事例研究とその評価3
- 第14回 全体的討議、質問

### 成績評価方法と基準

レポートによる評価  
C評価 基礎的事実が収集されている。  
B評価 基礎的事実に立脚して論理的、実証的に書かれている。  
A評価 基礎的事実に立脚して論理的、実証的に記述が行われ、妥当な意見、評価、方策などが提示されている。

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

学部講義の日本建築史、および日本歴史に関する基礎的知識をもっていることを前提とする。

### オフィスアワー・連絡先

講義日随時。研究室。

### 学生へのメッセージ

重要文化財建造物、重要伝統的建造物群保存地区をできるだけ多数見学してほしい。  
日本歴史、日本建築、および日本美術など我が国の文化に関する素養は、国際人としての基本的素養であるから、あらゆる機会に素養を深める努力をしてほしい。そのうえで、自分の生まれ育った地域、現に居住している地域の文化を見つめてほしい。

### テキスト

特に指定しない。

### 参考書・参考資料等

講義時に指示する。

開講科目名	日本建築史特論		
担当教員	黒田 龍二	開講区分	単位数
		後期	2単位

### 授業のテーマと目標

日本の建築、都市、集落は長い歴史的時間の流れの中で独特の発展を遂げたきた。それらを学問的な認識の俎上に載せることは、これからの社会の形成にとって重要なことである。  
この講義では、地域の文化財の発見というテーマを設定し、地域の建築、都市、集落における文化財を学生それぞれが設定した問題意識のもとに、その意義を記述し、文化史的な評価を与える方法論を講義する。学生はそれに従い、あるいはまた独自の価値判断によって地域の文化財を発見する基礎的素養を身に付けることを目的とする。

### 授業の概要と計画

- 第1回 地域の文化財とはなにか。
- 第2回 地域の文化財を発見する論理
- 第3回 建築史的意義の具体例1（浄土寺浄土堂と太山寺本堂）
- 第4回 建築史的意義の具体例2（浄土寺の配置計画）
- 第5回 歴史的意義の具体例1（浄土真宗本堂の形成）
- 第6回 歴史的意義の具体例2（地域における浄土宗本堂の分類、類型の発見）
- 第7回 文化史的意義の具体例1（オコナイに使用される建築類型と分布）
- 第8回 文化史的意義の具体例2（オコナイに使用される建築類型の意義）
- 第9回 社会的意義の具体例1（神社史、神社建築史における神仏習合）
- 第10回 社会的意義の具体例2（国家史と神社理解の関係）
- 第11回 学生の事例研究とその評価1
- 第12回 学生の事例研究とその評価2
- 第13回 学生の事例研究とその評価3
- 第14回 全体的討議、質問

### 成績評価方法と基準

レポートによる評価  
C評価 基礎的事実が収集されている。  
B評価 基礎的事実に立脚して論理的、実証的に書かれている。  
A評価 基礎的事実に立脚して論理的、実証的に記述が行われ、妥当な意見、評価、方策などが提示されている。

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

学部講義の日本建築史、および日本歴史に関する基礎的知識をもっていることを前提とする。

### オフィスアワー・連絡先

講義日随時。研究室。

### 学生へのメッセージ

重要文化財建造物、重要伝統的建造物群保存地区をできるだけ多数見学してほしい。  
日本歴史、日本建築、および日本美術など我が国の文化に関する素養は、国際人としての基本的素養であるから、あらゆる機会に素養を深める努力をしてほしい。そのうえで、自分の生まれ育った地域、現に居住している地域の文化を見つめてほしい。

### テキスト

特に指定しない。

### 参考書・参考資料等

講義時に指示する。

開講科目名	西洋建築・都市史特論		
担当教員	足立 裕司	開講区分	単位数
		後期	2単位

### 授業のテーマと目標

現代の建築設計の基礎となっているモダニズムについて、その形成過程から検討することにより、建築設計の基本となる表現・理論・思想についての理解を深める。それらは実際に建築設計に取り組む上で重要な素養であり、自己の設計を社会的な視座や人間的な視点から考えることにより、都市環境や建築環境についての理解を深めるとともに、建築設計を職能面、倫理面からの視点を通じて考え直す契機となることをめざしている。近代建築史の中から下記のようなテーマを適宜取り上げて講述する。多様な分野の関心を包摂しうるように、主として今日的な意義、関心の高い話題を取り上げる。

### 授業の概要と計画

1. アーツ・アンド・クラフツ運動以降のデザインと職能の形成
2. モダニズムと建築言語に関する考察
3. 現代建築思潮と建築環境についての考察
4. ポスト・モダニズムの理論とデザイン
5. 建築デザインにおける時間の概念

### 成績評価方法と基準

提示したテーマの中から1つを選び、各自が考察した内容についてプレゼンテーションする。

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

(一級建築士実務資格認定科目)

### オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーの日時は授業開始時に通知する。  
E-mail: adachi@kobe-u.ac.jp

### 学生へのメッセージ

建築デザインの理論がどのように形成され、設計に反映されていくかを歴史的に考察するので、設計を志す学生は是非受講してほしい。

### テキスト

参考文献は授業開始時に紹介する。

### 参考書・参考資料等

開講科目名	地域安全計画特論		
担当教員	大西 一嘉	開講区分	単位数
		後期	2単位

### 授業のテーマと目標

現代の建築・都市が抱える安全安心テーマをとりあげ、社会的受容性あるいは防災的アジェンダ形成の観点から現実の行動や建築・都市活動との関係を論じる。各受講者は与えられたそれぞれのトピックについて積極的に事例を提出し、討議に加わることで、理解力、まとめる力、コメント力、プレゼンテーション力を評価される。

### 授業の概要と計画

学術研究と社会との接点を意識しつつ、建築基準法、都市計画法、消防法などに基づく建築物の安全性能評価に関わる総合化手法や、延焼過程の研究にもとづく法的枠組みの理論的根拠を講述し、実務に即した建築安全設計能力向上を図る。受講者は、以下のトピックから幾つかを選び考察する。1) 地域の風土、文化と災害、市街地景観と木造密集地、2) 地震火災と日常火災、法令に基づく用途区分の違いと法規制、3) 木造の経年劣化と居住性、耐震性強化とリスク認識、4) 都市復興計画の支援システム、自治体における災害対応、5) マンションの日常管理と緊急対応、地震時の人的被害軽減戦略、6) 復興まちづくりと防災まちづくり、防災教育、7) 防災体制の国際比較、震災復興対策の海外事例

### 成績評価方法と基準

成績は、グループでのレポート(40%)、個人でのレポート(30%)、および発表と質疑応答の内容(30%)を加味して評価する。

評価が60点以上となったものを合格とする。評価の目安は、講義の内容を十分に理解して基礎知識を取得し、意欲的に講義に参加したと判断できる場合を優、講義の内容はよく理解したが、積極性が十分でない判断できる場合を良、講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を可とする。

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

(一級建築士実務資格認定科目)

### オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーの日は授業開始時に通知します。

### 学生へのメッセージ

### テキスト

教科書は特に指定せず、授業時に配布する資料等により講義する。

### 参考書・参考資料等

大西一嘉他、著「大都市の社会基盤整備」(東京大学出版会)

開講科目名	生活環境計画特論		
担当教員	山崎 寿一	開講区分	単位数
		後期	2単位

### 授業のテーマと目標

生活および地域の視座から持続的発展のための環境計画の方法を獲得するために、話題論文の精読と環境共生的な建築や土地利用・地域空間の事例のワークショップ及びその解説を行う。

### 授業の概要と計画

- 1) 生活・地域に視座をおく環境計画理論の検証
  - ・古典・話題論文の視点・背景・課題設定、論証の方法、現代的価値・成果の有用性について理解する。
- 2) 持続的発展のための環境計画の方法の修得
  - ・フィールドワークや文献・図・写真を用いた建築・環境の文脈の読みとりや、そこに内在するサステイナブルな環境形成に必要な空間生成・環境管理の諸条件を理解する。

### 成績評価方法と基準

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

(一級建築士実務資格認定科目)  
 成績評価：受講生は、講義および討論に関するノートと課題レポートを編集してポートフォリオを作成し、最終成果物として提出することになる。成績評価は、最終提出物と講義の出席状況によって行う。

### オフィスアワー・連絡先

### 学生へのメッセージ

### テキスト

第1回目の講義で示す。

### 参考書・参考資料等

開講科目名	環境デザイン特論		
担当教員	遠藤 秀平	開講区分	単位数
		後期	2単位

### 授業のテーマと目標

環境デザインの分野で、現在関心が集中している新しい問題を捉え、これについて多面的に分析することにより、環境デザインへの理解を深める。

### 授業の概要と計画

講述及び討論の中から、課題を設定し、受講者の報告と講義及び批評・助言の双方式の科目運営を行い、環境デザインの諸問題について、内容を理解すると共に、歴史的、社会的、文化的分析の方法を学習する。

### 成績評価方法と基準

成績は、レポートおよび発表の内容で評価する。評価が60点以上となったものを合格とする。評価の目安は、講義の内容を十分に理解して基礎知識を取得し、意欲的に講義に参加したと判断できる場合を優、講義の内容はよく理解したが、積極性が十分でない判断できる場合を良、講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を可とする。

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

学部において、計画・デザインに関する講義・演習を修得していることが好ましい。

### オフィスアワー・連絡先

### 学生へのメッセージ

### テキスト

### 参考書・参考資料等

開講科目名	鋼架構論		
担当教員	未定	開講区分	単位数
		後期	2単位

### 授業のテーマと目標

鋼構造設計における部材および骨組の弾塑性挙動について論述する。特に、鋼構造設計の重要な要素である塑性解析および座屈について詳述する。また、座屈現象と許容応力度設計法、限界状態設計法による鋼構造部材の設計式との関連についても論述し、これらの理論を超高層ビルなど実際の鋼構造架構の設計に適用する方法を学ぶ。

### 授業の概要と計画

- (1) 架構の耐震設計法
- (2) 塑性解析と塑性設計
- (3) 座屈と座屈補剛
- (4) 骨組の弾塑性解析

### 成績評価方法と基準

成績はレポートの内容で評価し、評価が60点以上となったものを合格とする。評価の目安は、講義の内容を十分に理解して基礎知識を取得し、意欲的に講義に参加したと判断できる場合を優、講義の内容をよく理解したが、積極性が十分でないと判断できる場合を良、講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を可とする。

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

### オフィスアワー・連絡先

授業開始時に通知する。

### 学生へのメッセージ

### テキスト

井上一朗「建築鋼構造の理論と設計」

### 参考書・参考資料等

開講科目名	空間構成論		
担当教員	田中 剛	開講区分	単位数
		後期	2単位

### 授業のテーマと目標

鋼を主体に用いて建築空間を構成する場合，構造上の重要なポイントとして接合部の設計があげられる．本講義では，接合部の力学性状について講述するとともに，設計上の問題点について解説する．

### 授業の概要と計画

1. 板の極限解析
2. 接合部の力学性状
3. 接合部設計の考え方
4. 接合部設計の問題点
5. 接合部施工の手順
6. 接合部の挙動と架構の挙動

### 成績評価方法と基準

成績は講義中に課すレポートにより評価する。高度な問題まで解決できるものはA，応用的な問題をある程度解決できるものはB，基礎的な問題を解決できるものはCとする。なお，出席回数が70%未満のものは不合格とする。

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

建築鋼構造の基本的な考え方については、理解できているという前提で講義を行う。

### オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーの日時は授業開始時に通知します。

### 学生へのメッセージ

建築鋼構造の接合部設計は、力学と施工の両方を理解して初めて行なうことができるようになります。講義で得た知識を本当の意味で自分に根付かせるためには、実際の接合部がどのように構成されているのかを観察し、力の流れと施工手順をあれこれ自分で考えることが大切です。是非、そのような習慣を身につけて下さい。

### テキスト

### 参考書・参考資料等

鋼構造接合部設計指針，日本建築学会

開講科目名	建築構造システム論		
担当教員	谷 明勲	開講区分	単位数
		後期	2単位

### 授業のテーマと目標

建築物の構造計画を行う際に必要となる離散的構造解析手法や構造同定・制御に関する講義を行う。さらに、構造最適化を行う際に必要となる計算科学的手法についても講述する。コンピュータを用いたシミュレーションの実習も行い、実際の構造計画を行う際に必要となるシステム化手法の基礎を学習・習得することを目標とする。

### 授業の概要と計画

1. 解析：離散的解析手法
2. 構造同定：静的・動的モデル，損傷モデル
3. 構造制御：予測・適応・最適制御
4. 計算科学的手法
5. 各種シミュレーションの実習

授業の進め方：

コンピュータによるプレゼンテーションを用いて講義を行う。また，資料を適宜配布するとともに，必要事項は板書する。

### 成績評価方法と基準

成績は，定期試験により，評価が60点以上となったものを合格とし，80～100点の場合を優，70～79点の場合を良，60～69点の場合を可，59点以下は不可と評価する。

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

### オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーは講義開始時に通知する。

### 学生へのメッセージ

講義に対する質問や問題提起を歓迎する。オフィスアワーは，講義開始時に通知するが，オフィスアワー以外の時間帯については，研究室スタッフが教員の予定を把握しているので相談されたい。

### テキスト

特に指定せず，適宜，資料を配付する。

### 参考書・参考資料等

講義中に参考図書を紹介する。

開講科目名	都市環境システム		
担当教員	竹林 英樹	開講区分	単位数
		後期	2単位

### 授業のテーマと目標

都市環境・地球環境に配慮した建築・都市のあり方がテーマである。そのような視点から、建築・都市の形態、材料、構成などが都市熱環境及び地球環境に及ぼす影響について理解するとともに、具体的な解析方法、改善方法などに関する知識を獲得することを目標とする。

### 授業の概要と計画

ヒートアイランド現象と地球温暖化現象の一般的事項について説明した後、都市熱環境解析の基本である都市の熱収支、放射環境、風環境の解析方法について詳述する。更に、ヒートアイランド対策技術やその評価方法、評価ツール（CASBEEなど）、行政の取り組み、都市環境気候図を用いた活動、などにも言及する。

### 成績評価方法と基準

講義に関連したテーマのレポートにより評価する。主に講義内容の理解度を評価基準とする。

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

特になし。

### オフィスアワー・連絡先

授業開始時に通知する。

### 学生へのメッセージ

遠慮なく質問すること。

### テキスト

適宜資料を配布する。

### 参考書・参考資料等

必要に応じて適宜提示する。

開講科目名	音環境解析論		
担当教員	阪上 公博	開講区分	単位数
		後期	2単位

### 授業のテーマと目標

建築・都市空間における音響物理現象の解析と、その物理的要因の制御に関する基礎理論を理解させる。講義中に随時演習を行ない、単に知識として習得するだけでなく、考え方を身につけることを目標とする。

### 授業の概要と計画

建築・都市空間における音環境の諸問題について、物理現象としての取り扱いをもとにした解析および制御の理論を講述する。特に、室内および屋外の多様な条件下における騒音伝搬などの諸問題を中心として、その解析の考え方と手法、制御の理論と実際について述べる。

### 成績評価方法と基準

授業中に課題を指示し、演習を行う。成績評価は、この演習によって行い、高度な問題まで解決できるものはA、応用的な問題がある程度解決できるものをB、基本的な問題を解決できるものをCとする。

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

### オフィスアワー・連絡先

授業開始時に指示する。

### 学生へのメッセージ

### テキスト

必要な資料は配布する。

### 参考書・参考資料等

開講科目名	建築ゼミナールII		
担当教員	建築学各教員	開講区分	単位数
		後期	2単位

#### 授業のテーマと目標

建築系の各関連分野における国内外文献の購読や研究発表等と、少人数による討議を行う。

#### 授業の概要と計画

#### 成績評価方法と基準

成績は課題に対する発表，レポートなどにより評価し，60点以上を合格とする。発表，レポートの内容が充実しているものに対し優，平均的なものに対し良，最低限のものを可とする。

#### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

少人数教育を前提とするため，建築系における計画意匠分野・環境工学分野を主専攻とする学生に限る。

#### オフィスアワー・連絡先

#### 学生へのメッセージ

#### テキスト

#### 参考書・参考資料等

開講科目名	建築ゼミナールⅣ		
担当教員	建築学各教員	開講区分	単位数
		後期	2単位

### 授業のテーマと目標

建築ゼミナールⅢの実習内容と同じであるが、建築ゼミナールⅢとは異なる対象を扱うか、もしくは同じ対象であっても、さらに発展させた活動として、より高度な設計・分析・理論化の能力の習得を目指している。

### 授業の概要と計画

下記のテーマから1つを選び実践的な建築演習を行う。

1. 現在の建築素材を選び、現代的建築空間構成の可能性を追求する。素材の性格の理解、構成上の工法、構造的な強度等の検討を行い、具体的な空間をもつモデルとして図面化を含めた提案を行う。
2. 近在の具体的な歴史的建造物を選び、実測図の作成による寸法体系、構造、構成素材について理解するとともに、その保全のための計画、設計を行う。
3. 密集した住宅地を選び、各建物の火災・大規模災害等への対策を、調査を通じて提案する。個々の住宅について安全面からのチェックと地域の分析を通じた集約的な安全対策の立案を行う。
4. 建築の集団規定、および都市計画法の実践的な理解をめざす。市街地または田園集落において、その住環境整備や景観整備の課題を調査把握し、まちづくり構想から地域施設の計画・設計へつなげるプロセスを提示し、あるいは建築単体の計画から街区デザインにいたる提案を行う。

### 成績評価方法と基準

一級建築士資格と実務経験を有する学内教員を中心として、各研究グループから提出された事前調書をもとに、成果の評価を行う。成績は課題に対する成果と発表などにより評価し、60点以上を合格とする。成果と発表の方法・内容が充実しているものに対し優、平均的なものに対し良、最低限のものに可とする。

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

(一級建築士実務資格認定科目)

少人数教育を前提とするため、空間デザインおよび建築計画・建築史大講座に属する教員の研究室に所属する計画系分野を専攻とする学生に限る。

### オフィスアワー・連絡先

### 学生へのメッセージ

### テキスト

授業中に適宜提示する。

### 参考書・参考資料等

授業中に適宜提示する。

開講科目名	建築構造設計演習		
担当教員	建築構造系教員	開講区分	単位数
		後期	1単位

### 授業のテーマと目標

学内外の実務経験を有する1級建築士などの指導により、構造設計および監理の実務に関する幅広い知識の向上を計る。

### 授業の概要と計画

学内外の実務経験を有する1級建築士（6人程度）などにより構造設計あるいは監理の実務（構造デザイン、プロジェクトマネジメント、品質管理、設計事例の分析など）に関するテーマの解説・説明を行う。各講師が説明したそれぞれのテーマに基づいて考察・討議し、レポートを作成する。

### 成績評価方法と基準

レポートの提出により確認し、単位認定する。

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

(一級建築士実務資格認定科目)  
 少人数教育を前提とするため、空間デザイン、および構造工学講座に所属する構造系分野の学生に限る。

### オフィスアワー・連絡先

### 学生へのメッセージ

### テキスト

授業中に適宜提示する。

### 参考書・参考資料等

授業中に適宜提示する。